

農経新聞

JA全農山形 おきたま園芸ステーション

エダマメ生産振興へ

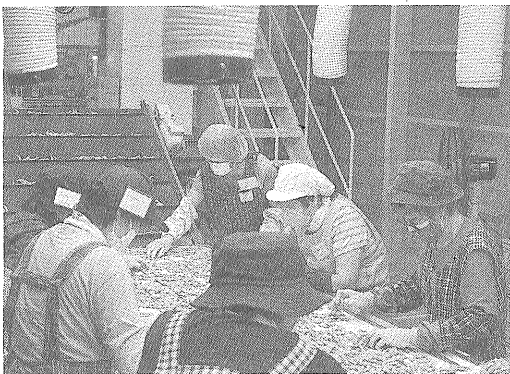
収穫後3時間以内に予冷が可能に

山形県内で、最も作付面積の大きい野菜がエダマメ。2019年に開所した「JA全農山形 おきたま園芸ステーション」(川西町)は、周辺8市町から集荷したエダマメ、アスパラガスの機械共選や果実の包装加工、青果の保管を行う、広域機械選果機能と物流拠点機能を備えた施設だ。エダマメでは、生産者は無選別のままコンテナ出荷が可能となり、収穫後3時間以内に予冷できるようになった。さらに、高性能の全自動色彩選別機の活用などで品質向上を図る。

JA全農山形 おきたま園芸ステーションは、大規模な水田転作による園芸生産振興が急務な県南地域に設置。エダマメ、アスパラガスを中心に生産振興を図り、生産基盤の強化と農家の所得拡大をめざす。共同選果で品質の平準化、共同販売で販売ロットを確保し、安定出荷することで有利販売につなげる。

施設は、旧JA大塚の玉米収穫施設(11ライスセンター、1233平方メートル)を改修し、予冷庫(358平方メートル)を新設した。運営はJA全農山形とJA山形おきたまで、選果・包装加工は同JAが担う。エダマメの1日の最大処理量は8.3ト。エダマメでは、JA山形おきたまの枝豆振興部

会員の6割に当たる77人が利用。生産者はこれまで選果から包装まで自身で行っていたが、現在は選別しないままコンテナで出荷すれば良い。施設に入荷したエダマメ入荷したエダマメを洗浄。付属の高圧洗浄機により頑固な汚れにも対応(上)、機械選別の後は手選別を行う



メは、ブラシ洗浄・脱水した後、選別される。選別に使用する「全自動色彩選別機」は、高精度フルカラーCCDカメラを上面に3台、下面に3台、さらに形状認識専用カメラが3台で、業界最大の合計9台を備える。これにより精度の高い形状認識ができるようになり、検出精度裂莢の検出も可能となった。また、搬送用のベルトは1290ミリ幅で、エダマメ用としては国内最大級となる。その後、手選別、軽量、袋詰め、金属検出を経て、出荷用段ボールへと収納される。自動計量器は1分当たり100回、自動袋詰め機は世界最高クラスの1分当たり100袋の高速処理能力を持つ。予冷施設は冷却器を6台設置し、温度を5℃程度に設定。さらに、光触媒によるエチレン除去装置を4台備える。出入口には防熱扉を使用。開閉時の温度変化を抑えるため、自動感知式シートシヤッターも併用する。エ

ダマメ、アスパラガス以外では、西洋ナシや加工キャベツなども保管する。

エダマメは約10品種をリレーさせることで、7月〜10月中旬まで長期間出荷する。施設稼働からの取扱いは、19年の150トから21年には298トに拡大。ただ、22年は水害の影響により206トに減少している。出荷は、東北、中部、近畿地

域の卸売市場が中心。規格外品のうち出荷できないものは緑肥にする。このほか、アスパラガスは春芽を扱い、4月中旬〜6月下旬頃まで選果する。1日最大処理量は1.8ト。包装加工は5月中旬〜3月中旬。シャインマスカット、デラウェア、西洋ナシを中心とする特産果実のギフト品など付加価値商品の開発や、販売提案を行う。

2023年(令和5年)9月18日(月曜日)